

---

# 僕の存在する理由。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕の存在する理由。

### 【Zコード】

Z5364M

### 【作者名】

### 【あらすじ】

『永遠』を信じるクールな少女・『蓮見耶 蓮』と『永遠』を信じないふわふわした女の子『鷹野 海晴』そんな二人の突然の話に蓮と幼馴染の『松原 爽茶』（まつばら そうた）が巻き込まれる。（話は、爽茶が主人公です。爽茶と海晴の絡みはありません。）

(前書き)

いつも。 です。

今回の話は『永遠』についてです。

なんだつけ。本当にこんな歌があつておもいつきました。

そして、話がずれました。。

ちなみに、爽茶の苗子は全然出てきません。

そんなんですが、よろしくお願ひします。。

僕は。生きている意味があるんだろうか・・・?

永遠なんてないし、誰かの心に残らないなら・・・生きている意味なんてあるんだろうか??

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「そーーた??何してんの?」

こいつは、幼馴染の

蓮見耶 蓮

女子にしては珍しい名前だと思つ。

髪の毛も地毛の金髪だし・・・。

「ん??アリの観察・・・。」

「蟻??なんでまた、そんなもんを・・・。」

蓮が苦笑しながら蟻のほうを見た。

「むつ・・・。別に?好きでやつてるわけじゃないしー。」

そんな風に僕がぶつかりぼつて言つても

「ふ～～ん。」

で、終わり。特にそれに乗つて怒るわけでもなく、ただそれだけ言う……。

「つていうかわ、まあ。やーたのやつてね」に興味があつて「ここのわけじやないんだけど」……。」

ああ……やつだらうね……。

「何?なんか用事があつて来たんじやないのか??」

いつたん蟻の匂いを見るのをやめて、蓮を見ると……。

「やーたはや……。『永遠』つて信じる?」

は?何だ……。その質問は……。

「は?なんだよ。それ。」

「ん?…こや。この前わ。みーちゃんと話したんだが……。」

ちなみ、やーひやんとま、

鷹野たかの  
海晴みはる

つて言つて、かなりのお嬢様だつた氣がする……。

なんだつけ? ? 鷹野財閥? よく覚えてないけど……。

初めて、蓮に紹介された時のイメージは・・・。

ふわふわしてて、なんか・・・ぬいぐるみが生きてる発言をしそうな感じの子だったと思つ・・・。

「んでね。みーちゃんが。『永遠なんてありえないんだよ。』とか  
いうからさー。そーたばざつ思つてゐのかなつて。」

• • • ? ? ? ? ?

「それは・・・ビーハシチユエーションだったのかな??」

「へ？？どーいうつて・・・えつと・・・確か、なんかの曲に。『僕らが集まれば永遠ができる』っていう歌詞があつて。」

・ どういう歌詞だ。  
つていうか、何の歌だ・・・

おい。みーちゃんて、もつとふわふわしてて、たしか、お嬢様学校  
通つてて、そのお嬢様学校でも、特に金持ちで、制服めっちゃ改造  
してて、つていうかもう原型どどめてなくつて、髪の毛なぜか白く  
つて、なぜかいつも熊のぬいぐるみ抱えてて、目も垂れ目で、も  
う一回言つけど。

なんで・・・なんで・・・。そんな現実的なの？！

「でね。うちが。『永遠は存在するよ。死んだって、人の心には残つてるでしょ?』って言つたら・・・。『ん?何言つてるんですか?みなさん。絶対に『永遠は存在しない!』って言いますわよ?』つていうんだよおおお。どう思つ?」

・・・ニヰ。エリの腰の上にか・・・。

「・・・みーちゃんて・・・意外と現実的なんだな・・・。」

「ねいつひいつねいつ事が聞きたいんじゃなくって。そーたは『永遠は存在する』って思つ??.」

・・・セレカ?・・セレカ?・?・? みんなの心のギャップではなく  
つて?・?

「俺は、『永遠』なんて存在しないとおもうね。」

「ん?・なんでええええええ?」

つていうか、もしかしなくてもここのはづがヤップおかなかつたりするのか？？

俺は、幼馴染だからあんま感じなかつたけど・・・。

「『なんで』って。決まってるだろ？『永遠』なんて存在しないよ。

L

「むひひひひひひ。存在するよ……だつてさ……。」

「『人の心には存在する』って言いたいんだろうけど。俺はそうは思わないよ……。だつて、どれだけ有名な人でも、それを知つてる人が死んだり、伝えたつて、流行らなければ、消えていなくなっちゃうもんだろ?」

そう言つと、あいつは軽く泣きそうになつて……。

「そんな・・・こと・・・ないよ……だつて……歴史人物だつているし!! 徳川だつて!! 藤原だつて!! 卑弥呼だつて!! ちゃんと皆残つてるじゃん!! どんな人か知らなくつても!! 顔だつて知つてるし!!」

そつやつて大声で叫ぶ。

「じゃあ? 何か? 書かれていればそれでOKか?!! 永遠つてそんなものか?!! そんなものなら。俺は!! 永遠なんて!!」

はつ・・・何言つてるんだ?? 俺は・・・

「『永遠なんて』?」

やばい・・・熱くなつちゃつた・・・

「いや・・・なんでもない・・・。」

そつ言つてふいつと他のほうを向くと・・・。

「私は・・・それでも・・・そんなんでも永遠は存在してほしい・・・

・。」

「？」

「もしも、本当に永遠なんて存在しなくなつても……誰かの何かの心に……記憶に残つていてほしい……。それは、きっと永遠なんだと思うから……。」

やつやつてほつりほつりと話し始める……。

「じゃあ……なんだよ。その人が、死んだら。どうすんだよ。人は永遠なんてなくつて……死んで。お前の言つよつに教科書に載つたつて……。」

何の意味もない……。

誰かの心に残つてなかつたら……。

「……私は……教科書に乗りたいとは思ない……。」

そう言つて隣に座る蓮。

「ただ……教科書に載つたら、永遠になるきもする……。」

「だから……それは、記憶に残つているだけで……いつかは忘れ……。」

蓮がにこやかに笑つた。

「教科書の人でも、もしかしたら……その生き方に感動を受ける

人がいるかもしない。卑弥呼の生き方に感動してもしかしたら、それがきつかけで変われる人が存在するかもしない。教科書に載らなくつたつて・・・その人が、それを誰かに伝えて、もしかしたら、その人も感動を受けて、それが広がっていくかもしない・・・。それつて、すごい奇跡だなつて思うし、それつてすごいことだとと思う。それで、死んで、天国や、もしかしたら地獄に行つて、そこで、その尊敬する人に出会えて。そこで。『あなたのおかげで私は変わりました。』って言われたら、それつて『永遠』になつてると思う。その人にとつてそれは永遠なんだとと思うんだ。そうやつて、最後言われるよう生きていきたいと思う・・・。』

なんか・・・最後変わつてないか?話の要点がずれてると思つ・・・。

でも・・・。

「そう・・・だな。そうやつて最後言われるよう生きてこいつか・・・。永遠を誰かに残せるように・・・。永遠になれるように・・・。」

誰かのおかげで変われて、誰かを変えられるようなそんな永遠・・・。

「ん?つてことは、蓮。お前もつ、永遠になつたぞ。」

「?」

「だつて・・・。」

お前が俺を変えたんだから・・・。

「あなたのおかげで変われたんだ。ありがとう。」

(後書き)

どうもです。

話が変化しましたね。ちなみに、最後は、皆様の「想像にお任せします。

爽茶が、蓮に言つたとどうえてもいいですし、爽茶が誰かに言われたと考へてもらつても・・・。自由にね。

こんな終わり方ですが、最後まで読んでいただきあつがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5364m/>

---

僕の存在する理由。

2011年1月8日23時52分発行